

痔のはなし 1



不二越病院 外科部長
(外科学会指導医)
医学博士
山本 克弥



痔は「成人の2人に1人は痔主」といわれるほどポピュラーな病気です。直立歩行で肛門に負担がかかるのが原因で、人間特有の病気です。命に直接関わらない上に、人前で話しにくい病気のため、多くの人は治療が遅れがちになるようです。

ここでは痔についての知識と正しい治療・予防法について2回にわたってお話します。

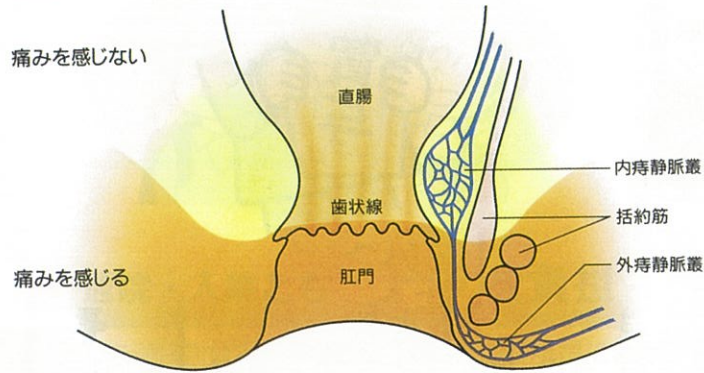
正しい知識と 早期治療が大切

痔は肛門の病気だけに、「恥ずかしい病気」「人目にさらしたくない」といった意識を持つ人がほとんどだと思います。痛みや出血等の自覚症状があるにもかかわらず、放置していたり、自分で適当に手当をして症状をますます進行させ、大変な手術につながってしまうケースもあります。痔について正しい知識を持ち、早期に治療を行うことが大切です。

痔は次の3つに大きく分けられます。

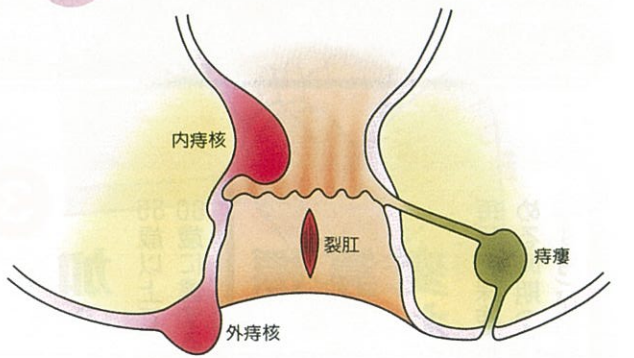
- ①痔核：直腸肛門部の血管が悪くなり、血管の一部がふくれあがる
- ②裂肛：硬い便によって肛門上皮がさける
- ③肛門周囲膿瘍・痔瘻：細菌感染が原因で膿が出る

図2 お尻の解剖図



括約筋：肛門をしめている筋肉
静脈叢：静脈が網目状にひろがっているところ
歯状線：直腸(粘膜)と肛門(皮膚)のさかいめ

図1 お尻の3大疾患



痔核(いぼ痔)について

痔核は、便秘時のいきみや腹圧による肛門部への過度の刺激、長時間の座りっぱなしや立ちっぱなしによる血行障害(肛門部のうっ血)などによって発生する痔です。痔核は、できる場所により「内痔核」と「外痔核」とに分けられます。

痔核の原因はさまざまですが左記に例をあげます。

- 便秘等による排便時のいきみ
- ゴルフのスウィング等、スポーツ時のいきみ
- 長時間の座りっぱなし、立ちっぱなしの姿勢
- 重い物を運んだりするときのいきみ
- 妊娠、出産時
- アルコール類や刺激物(からし、わさび等)の過度の摂取

犬には痔はない？

ヒトのお尻は四つ足の動物とちがって、心臓よりも低い位置にあるので、うっ血しやすくなっています。痔は犬や猫などにはない、ヒト特有の病気と聞いています。

内痔核の原因と症状

排便時のいきみのくり返しなどによりうっ血が生じ、歯状線より上部の内痔静脈叢がいぼ状にふくらんだものを内痔核といいます。最初のうちは排便時の出血のみで痛みはありませんが、症状が進むと排便時にいぼが肛門外に出て、痛みを生じる場合があります。



理想の排便時間

内痔核の主な原因は排便時のいきみです。最近私は患者様に説明するため自分の排便時間を測定しています。下着を下げる前からあげ終わるまでの時間は長くて2分です。新聞や雑誌を持ってトイレに入る人がいますがこれが一番良くありません。便秘や痔のある人はどうしても時間がかかります。原因を排除し、理想の排便時間になるようにしましょう。どんなに自分の物の香りが良くても早く切り上げるようにしてください。

痔核と痛み

肛門の痛みは歯状線の外側(皮膚)【図2参考】に炎症や病変がある場合に生じます。外痔核は痛覚のある部位にできるので痛みを伴いますが、内痔核は痛覚のない粘膜にできるので痛みはありません。ところが内痔核も程度が進んでくると、肛門外に脱出し、外痔核を伴うようになります。その結果、痛みが出てきます。

③結紮切除手術

痔核を切除する方法です。程度と痔核の数にもよりますが、1〜2週間の入院が必要ですが、術後排便時に痛みを少々伴いますが、昔の手術(私はやったことがない)の痛みとは全くちがいます。

④PPHの手術

痔核の脱出のため緩んだ粘膜を切除し、痔核にそそぐ血管を遮断することにより痔を治す方法です。痛みは全くなく、入院期間も4〜5日間ですみませんが、この手術が可能な症例は限られています。

図3 内痔核の進行度分類

分類	主な症状
I度	●痔核の脱出はない。 ●痛みはなく、排便時に出血することが多い。
II度	●排便時に脱出するが、自然にもどる。 ●出血があり、痛みも出てくる。
III度	●脱出して、指で押し込まないともどらない。
IV度	●指で押し込んででももどらない。 ●硬くなって痛みも出血もなくなる。 ●粘液がしみ出して下着が汚れる。
血栓性外痔核	●肛門周囲に血栓(血の塊)がつくれたもの。 ●皮膚が破れて出血することがある。 ●はげしく痛む。
嵌頓核	●痔核内に血栓が多くでき、嵌頓状態(脱出して腫れ、もどらなくなる)となったもの。 ●はげしく痛む。

内痔核の治療

当院では内痔核の治療を左記の4つを基本として行っています。

①保存的治療

時々血が紙につく、脱出感がある、など分類(図3)でI度からII度の場合は、排便習慣の改善や薬物療法で症状が落ち着きます。

②結紮手術

内痔核の好発部位(できやすい所)は3カ所あります。痔の数が1から2個(できれば1個の時がよい)でII度までのものは外来手術が可能です。入院の必要はありません。



痔のはなし

2



不二越病院 外科部長
(外科学会指導医)
医学博士
山本 克弥

痔の知識と正しい治療・予防法について、前号に引き続きご説明します。今回は痔核(いぼ痔)、内痔核などを取り上げましたが、今回は外痔核、裂肛(きれ痔)、痔瘻の話です。

外痔核について

外痔核の原因と症状

外痔核は、いきみや疲れなどで生じる肛門皮下の静脈のうっ血による血栓(血の塊)と浮腫(たんこ)

ぶです。歯状線より下の部分にできますので強い痛みを伴います。指で硬いしこりとして触れることができます。

外痔核の治療

外痔核は何も治療しなくても自然に治る病気です。お酒、刺激物をやめ、ゆっくりお風呂に入り安静にしていると楽になります。血栓形成が強い場合、それを取り除く手術を外来で行います。もちろん薬を使うと早く楽になります。

裂肛(きれ痔)について

裂肛の原因と症状

裂肛とは、太くて固くなった便が無理に通過したために、肛門の出口付近が切れて起こる痔です。症状としては排便時に紙につく程度の出血と痛みがあります。裂肛になると、排便時に痛むため、トイレをがまんしてますます便が硬くなり、悪化

することがあります。こうなると傷が慢性化して肛門潰瘍となり、肛門が狭くなってしまいます。そしてますます便が通りにくくなり、傷がひどくなるといった悪循環を繰り返すこととなります。

裂肛の治療

単に硬い便で切れた裂肛は、便のコントロールと薬物治療で治すことができます。しかし、慢性化し、狭窄をきたしている場合と、歯状線上に肛門ポリープがあるために起こる裂肛は手術が必要です。

痔瘻(じろう)について

痔瘻の原因と症状

痔瘻系統は、肛門周囲膿瘍と痔瘻に分かれます。この2つは別々の病気ではなく、肛門周囲膿瘍が進行して慢性期になったものを痔瘻といいます。肛門周囲膿瘍は歯状線の小さなくぼみから大腸菌などが入り込み、直腸と肛門の周囲が化膿したものです。症状は肛門の周りが腫れて激痛が続き38〜39度の発熱を伴う場合があります。膿瘍が切開されるか、あるいは自然に破れたりすると症状は楽になります。その後直腸、肛門とつながった管が残ります。その管は、常に膿の混じった分泌液が出たり、肛門周囲に湿疹や皮膚炎などができ、かゆみや不快感を伴うようになります。

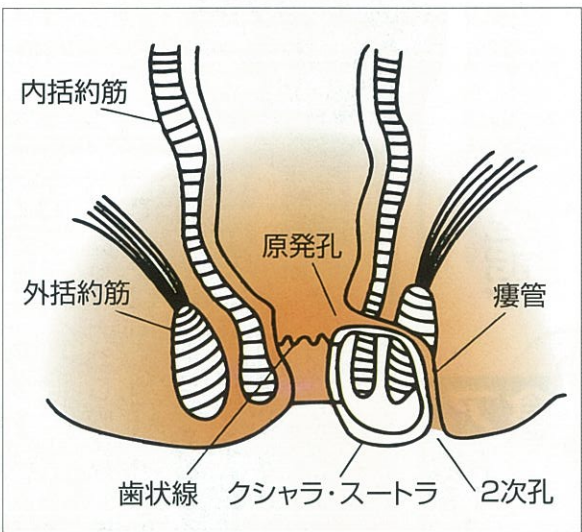


痔瘻の治療

痔瘻は薬では治りません。どうしても手術が必要ですが、当院ではアーユルヴェーダ医学を治療に用いています。

北日本新聞「みらい」11月号に「アーユルヴェーダ医学で治す痔瘻」を紹介しました。以下は、そこからの抜粋です。

痔瘻の治療(クシャラ・スートラ)



痔瘻は薬では治らず手術が必要です。これまでは病巣を完全に取り除く手術が主体でしたが、痔瘻の場所によって術後、肛門の変形や機能障害が残ることがありました。

当院では

1985年にスリランカの研修医がインドやスリランカで広く痔瘻の治療に使われている薬草の成分をしみこませた木綿糸を持参してきたのがきっかけで、今回紹介する痔瘻の治療法を始めました。

これはインド伝承医学、アーユルヴェーダに記載されている薬草成分を含む「クシャラ・スートラ」という糸を使用した治療です。治療法はきわめて簡単で2次孔から原発孔に糸を通ししばらくで糸が徐々に組織を溶かし瘻管を肛門側に切っていきます。1週間に1回糸の交換を必要としますが、長い時間をかけて切っていく事と糸に含まれている成分の作用で瘻管の後壁では組織の再生が起こっています。この糸にはキリンカクの樹液、ケイノコズチという草を焼いた灰を溶かした上澄み液の乾燥粉末とウコン粉末をしみ込ませてあります。キリンカクには局所刺激作用と催炎作用、ケイノコズチには腐食作用、ウコンには殺菌作用と抗炎症作用、と異なる作用が1本の糸に仕込まれているのがインド伝承医学のすごさだと思います。

これまでに当院で単純な痔瘻から複雑なものまで842症例に行ってきました。再発を5・2%

便潜血を無視しないで

急告!!

痔のある人はどうしても検便検査(潜血検査)が陽性になりがちです。いつも外来で説明しています。「痔から出る血も癌から出る血も赤い。癌から青い血が出ればいいのですが。」痔があるからと、結果を無視しないでください。この原稿を書いている時に、2年前の秋に潜血陽性、昨年の秋も陽性だった方が、ようやく行った大腸内検査で、進行癌が発見されました。2年前に検査をしていれば早期癌だったかもしれません。潜血陽性の人に必ず病気があるとは限りませんが、無視しないでください。お願いします。

に認めましたが、単純な痔瘻ではほとんど認めません。軽度の肛門変形を17例(2%)に認めています。痔瘻の手術は肛門括約筋を切断するため、一番困る後遺症は肛門機能障害すなわち肛門閉鎖不全です。この方法で治療した7例(0・8%)におなかをこわしたとき(下痢)、下着を少々汚す程度の機能障害を認めましたが、その後機能障害は消失しています。西洋医学にはない、時間をかけ、治しながら瘻孔を切り開いていくアーユルヴェーダ医学5000年の歴史を感じます。